

篠崎公園地区まちづくりにおける堤防近くの盛土高さを計画堤防高とすることを
求める陳情

(建設委員会付託)

受理番号 第 1 2 2 号

受理年月日 令和 4 年 6 月 1 3 日

付託年月日 令和 4 年 6 月 2 1 日

陳情者
.

陳情原文 篠崎公園地区まちづくり事業には計画堤防高を超える高さの盛土が計
画されています。補助第 2 8 8 号線の堤防に近接し、かつ並行して設置する予定の
ボックスカルバートの覆土の高さのところでは、

堤防は高さを均等にしておくことが大切です。低いところがあると、そこから越
水して破堤に繋がる危険があります。堤防は高ければ良いというものではありません。
高いところがあると低いところできてしまうからです。鬼怒川決壊や 2 0 1
9 年東日本台風での決壊は堤防が低いところからの越水破堤が多かったです。

もともと越水を許す高規格堤防は、通常堤防よりさらに堤防高さが均等であるこ
とが必要になります。越水を前提にしているのですから、越水に対して上流から下
流まで同等に負担を分担しなくてはなりません。

高規格堤防がどんな越水にも耐えるものであるなら、その堤防高の高低により越
水が集中する箇所があっても問題ないのかもしれませんが、高規格堤防は高規格堤
防設計水位により設計されていて、耐越水性能には限りがあります。高さの 3 0 倍
の堤防幅のときは、越流深さ 1 5 c m までの越水が起きても堤防が壊れることはな
いとされていますが、それ以上の越水に対する保証はありません。

ですから、予定されているボックスカルバートの覆土の高さが計画堤防高を超え
てしまうとよろしくありません。ボックスカルバートの覆土の高さが計画堤防高を
超えないようにするには、ボックスカルバートの設置高さを下げることが良さそう
です。しかし、そうするとボックスカルバートの道路面が計画よりさらに低くなっ
てしまい、ボックスカルバートへの浸水や湛水のリスクを増大させてしまいます。

ボックスカルバートの計画をやめて、補助第 2 8 8 号線のその部分の道路面を計
画堤防高に揃えることが解決策になると考えられます。そうすることにより、盛土
高さの上限を計画堤防高に揃えることができます。

この方法にすれば、たとえ想定最大規模の洪水や内水が起きても道路が浸水する
ことを避けることができます。気候危機や流域治水で取り沙汰されている大規模水

(裏面に続く)

害にあたっては、単に徒歩による避難経路を確保するだけでなく、水害時の車両交通路を確保することが危機管理施策として重要な観点であると考えられます。

また、この方法は設置費用、維持管理費用、更新撤去費用等を含めた費用の面でもボックスカルバートよりも優位であるのではないかと考えられます。ボックスカルバートは、設置にあたっての総費用もさることながら、区の負担も発生するのではないのでしょうか。また、底面の杭などによる支持構造敷設の費用も少なくはないでしょう。さらに、供用開始後の維持管理費用は、長期にわたり区の単独負担となるのではないのでしょうか。トンネルは渋滞時等の排気ガスの排出機構も必要であると思われます。

それに対して、堤防上面と同じ高さに道路を敷設するのであれば、設置費用も、支持構造費用も、維持管理費用もずっと小さく抑えることができるのではないかと推察されます。

以上のことから、下記のとおり陳情いたします。

記

- 1 篠崎公園地区まちづくりにおける堤防近傍の盛土高さを計画堤防高とすることを求めます。
- 2 補助第288号線のボックスカルバートをやめて、道路面を計画堤防高とすることを求めます。